



小田 新紀 議員  
(拓政会)

**問** 「幕別町子どもの権利に関する条例」に定められた想いの実現のためには、学校教育だけではなく、地域全体で子どもたちを育む環境づくりが求められている。

学校現場においては、「教職員の働き方改革」が喫緊の課題である。教職員の多忙化により、離職率も高まり、教職を希望する若者は減り、教育現場の人手不足も顕著である。これらは教職員の数だけの問題ではなく、子どもたち一人ひとりと向き合ったり、教材研究をしたりする時間が十分に取れないこと、さらには、質の高い教職員の確保ができないなど、子どもたちの育つ環境に大きな不利益となっている。

「地域が学校を支える」コミュニティ・スクールにおいても、本町では教職員頼りの運営となっているなど、学校への負担が大きく、さまざまな見地からの改善が必要である。

大人たちが本気になり、地域全

**問** 子どもたちの豊かな教育環境の充実に向け  
**答** 地域で担えるものを精査し、環境づくりを進める

体で、子どもたちの環境づくりを進めていくことが必要であると考え、以下の点について伺う。

(1) 教職員の多忙化解消に向けて、今年度の具体的な取組内容ならびに目標値は。

(2) 中学校部活動の地域移行に関わる取組状況は。

(3) コミュニティ・スクールの進捗状況は。

**教育長**

(1) 令和3年6月に策定した「第2期学校における働き方改革幕別町アクション・プラン」で掲げる4つのアクション「本来担うべき業務に専念できる環境の整備」、「部活動指導に関わる負担の軽減」、「勤務時間を意識した働き方の推進と学校運営体制の充実」、「教育委員会による学校サポート体制の充実」に向けた取組を進めている。

教職員の時間外在校等時間を1か月45時間以内、1年間で360時間以内とすることを目標に、引き続き業務の効率化・平準化や時間外在校等時間の縮減に向けての

取り組みを促進し、働き方改革の必要性についても普及啓発に努めていく。

(2) 「幕別町部活動地域移行検討委員会」を設置し、望ましい部活動の在り方や地域移行等について検討を行う。委員の選定は「関係団体の代表者」として、町内スポーツクラブ、幕別町スポーツ少年団本部、幕別町軟式野球協会等の各種スポーツ競技団体の代表者を、

「関係学校の代表者」として、町内中学校の校長を考えている。

北海道の「部活動の在り方検討支援アドバイザー派遣支援事業」を活用し、部活動の在り方に関して「幕別町部活動地域移行検討委員会」で共通理解を図ることを第一に考え、本町の部活動地域移行の課題等を明確化するところまでを一定の目標として進めていきたい。

「学校における働き方改革幕別町アクション・プラン」や、令和2年3月策定の「幕別町部活動の在り方に関する方針」により、教

職員や生徒の部活動に関わる負担軽減などに努めてきた。本年度から部活動地域移行についての具体的な検討を始め、可能な限り早期の実現を目指していく。

(3) 糠内学園やちゅうるい学園では、鹿児島県奄美大島の小中学校とのオンライン交流や町内事業者の協力による校外体験学習などが実現し、「地域学校協働活動」については、札内東学園において具体的動き出しており、他の学園についても「地域学校協働本部」立ち上げに向け、構想案の検討やロードマップの策定を進めている。

現時点では小中一貫教育の学園事務局が中心となって活動を支えているが、学校運営協議会や地域学校協働本部が主体的に活動できるように、推進委員会組織を立ち上げ、学校運営協議会の運営支援、地域学校協働本部の設立や運営支援を行うなど、先々の見通しを持ってサポートをすることも検討している。

今後も、地域とともにある学校づくり、学校を核とした地域づくりを進め、未来を担う子どもたちの成長を地域全体で支える社会づくりの実現に努めていく。